

平成二十八年四月二十五日

雨の音にて目を覺ますも心地よし。櫻散る頃より庭先の崖地に筍出で、雨後の筍とてことに收穫多し。七十年程前、先住の數本植ゑたる竹と聞くも今や數百本餘、竹藪密集、年毎に軟らかき地へ根を伸ばし我が庭にも闖入、松の根を絞附け銘木枯らす被害も甚大なり、竹の勢の凄まじきこと驚くべし。雪の重みに撓めども折れず、ふと氣附くや雪掃はれ直立するさま逞しき姿なり。

竹の増殖被害止むるは筍を食すに如かず。國有地私有地入組む隣の崖地なれども近隣の了解を得、此十年來、古竹を片附け乍ら筍掘は吾が日課なり。湯を沸かし直ぐ茹でたる筍の旨味格別にして冬の疲れ回復す。旬菜は壽命を伸ばす縁起物、親類友人知人に筍を届け春の喜び分つ。

八十路の父の従弟に花見の和歌を添へ筍を送りし禮狀に、歌會始に詠進したる曾祖母を懐かしむとあり、共に古人を偲ぶも筍のゆかしき縁なるか。

(平成二十八年六月十三日受附)